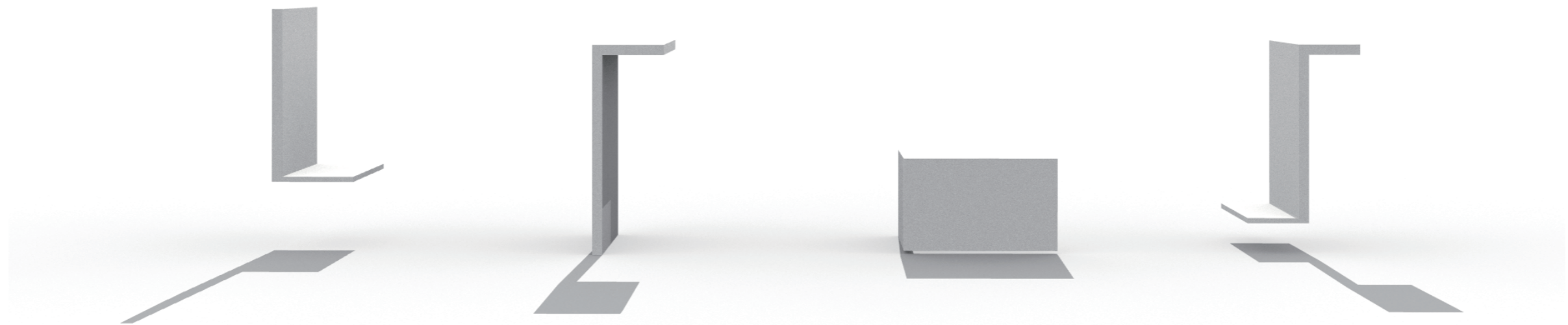


# FOLD



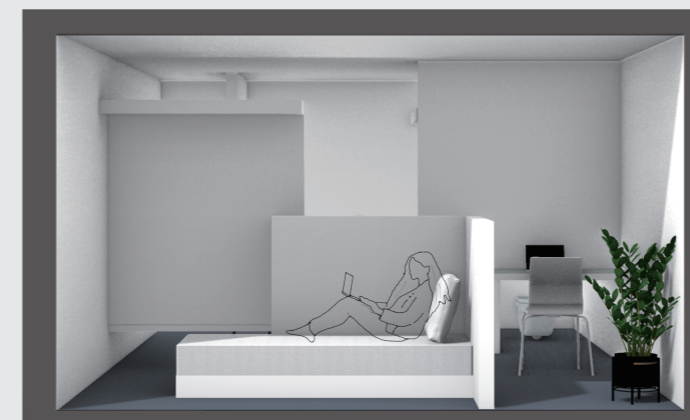


ワークスペース (右手前) とベッドスペース (左奥)



カウンターから部屋を見る

## SECTION

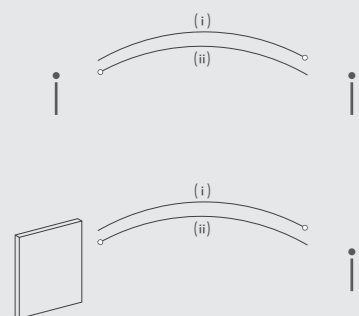


South



North

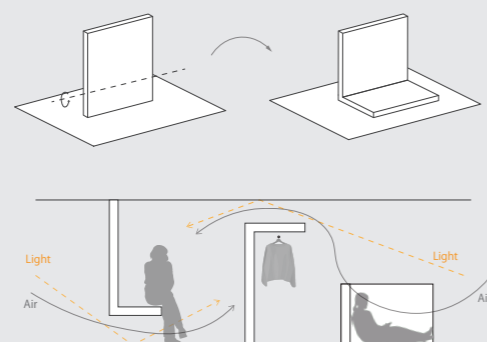
## CONCEPT



会話—それはよくキャッチボールに例えられる。片方が投げかけた言葉(ボール)をもう片方が受け取る<sup>(i)</sup>。そして、もう一度相手に言葉を投げ返す<sup>(ii)</sup>。相手を思いやりながら双方に言葉を投げかけ、受け取る。

人と人なら、言語を通じて会話は簡単である。しかし、人と壁ではどうだろう。壁は人に対して受動的な立場になること(もたれかかられたり、立て掛けられたり、引っ掛けられること)が多い。「人」が主体、「壁」が客体という関係が目立ってしまう。そこで、「壁」を折り曲げることにより、「人」の暮らしに干渉し「会話」のきっかけを作り出す。

## ELEMENT



壁を折り曲げるという一つの操作により、ベンチやカウンター、低めの天井、収納になる。それは「壁」からの暮らしの提案であり、「会話」のきっかけである。「人」はそれを受け取り、そこに座ったり、物を置いたり、ひっかけたり、囲まれたりすることで、「壁」に返事をする。

会話はこれで終わらない。折り曲げた壁の隙間から、光や風が通り抜ける。「壁」の働きかけと、「人」の暮らしによって、空間の質が常に変化しながら、壁との会話は続いていく。

壁の隙間を通った光は、天井や床、折り曲げた壁に反射して、柔らかな間接光となる。

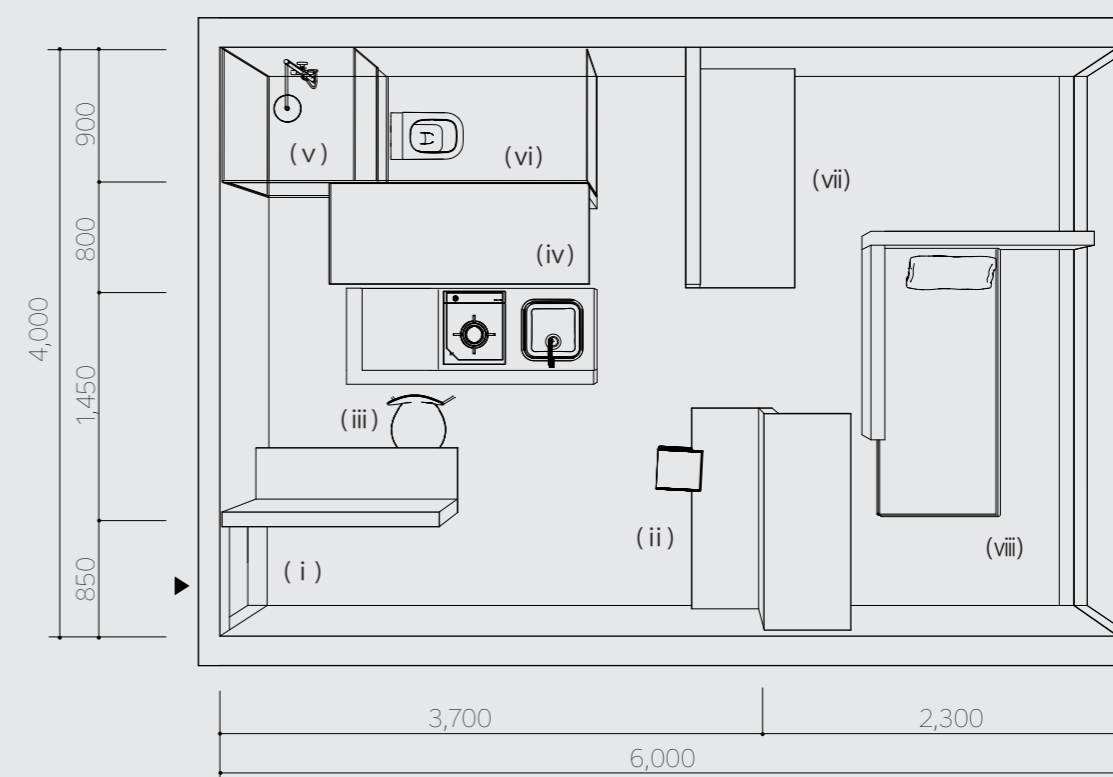
## ISOMETRIC



従来の1Rでは、壁や扉が床から天井まで伸びた閉鎖的な空間が多く、光や温度、風、香りが遮断される。

折り曲げた「L字の壁」を配置することで、6×4×2.4の箱の中に隙間が生まれ、光や風が通り抜け、一つの大きな窓から部屋全体に行き渡る。また、隙間から漏れる光により、部屋に明暗のコントラストが生じる。一人暮らしを想定したため、トイレやシャワールームはガラスで覆われた開放的な空間になっているが、普段の生活からは見えないように、壁が配置されている。

## PLAN



- (i) Entrance
- (ii) Bench
- (iii) Counter
- (iv) Kitchen
- (v) Shower
- (vi) Bathroom
- (vii) Workspace
- (viii) Bed